



CordaDay ～ブロックチェーンで変わる新たな世界～

貿易信用状取引のDXプラットフォーム (Contour)の国内展開に向けて

2022/11/10

TIS株式会社

金融事業本部 金融戦略事業企画部
内田 謙一 (Kenichi Uchida)



内田 謙一 (Uchida Kenichi)

TIS 株式会社 金融戦略事業企画部 主査
トレードファイナンスビジネスプロジェクトマネージャー

- ・ 2004年 TIS 入社
- ・ 大手クレジットカード会社の基幹システムの刷新、保守開発を経験した後、2014年より企画営業としてクレジットカード会社の新ビジネス検討を推進
- ・ 2020年より現部門にて金融領域全般の新事業企画を担当
- ・ 2021年12月の Contour との資本業務提携を契機にトレードファイナンスビジネスプロジェクトのマネージャーに着任
- ・ 2022年度経産省「貿易データ連携ワーキンググループ」のメンバとして参画

1. TISインテックグループ／TISのご紹介
2. TISとR3の関係／TISのブロックチェーンビジネスへの取組
3. 貿易信用状取引のDXプラットフォーム(Contour)のご紹介
4. Contourの国内導入に向けたTISのアプローチ
5. 最後に

1. TISインテックグループ／TISのご紹介

TISインテックグループ／TISのご紹介

貴社限り



TISは1971年に創業し、TISインテックグループの中核企業としてB2Bビジネスを中心に事業展開。グループ60社で、国内外の金融・製造・サービス・公共など15,000社以上のお客様のビジネスを支えるITサービスをご提供し、社会基盤を支えることに貢献します。



連結売上高
(2022年3月期)

4,826億円

連結営業利益
(2022年3月期)

548億円

連結従業員数
(2022年3月31日現在)

21,709人



単体売上高
(2022年3月期)

2,230億円

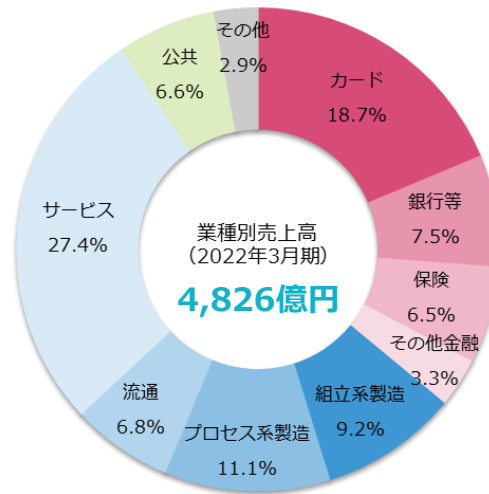
単体営業利益
(2022年3月期)

253億円

単体従業員数
(2022年3月31日現在)

5,469人

業種別売上高
(2022年3月期)



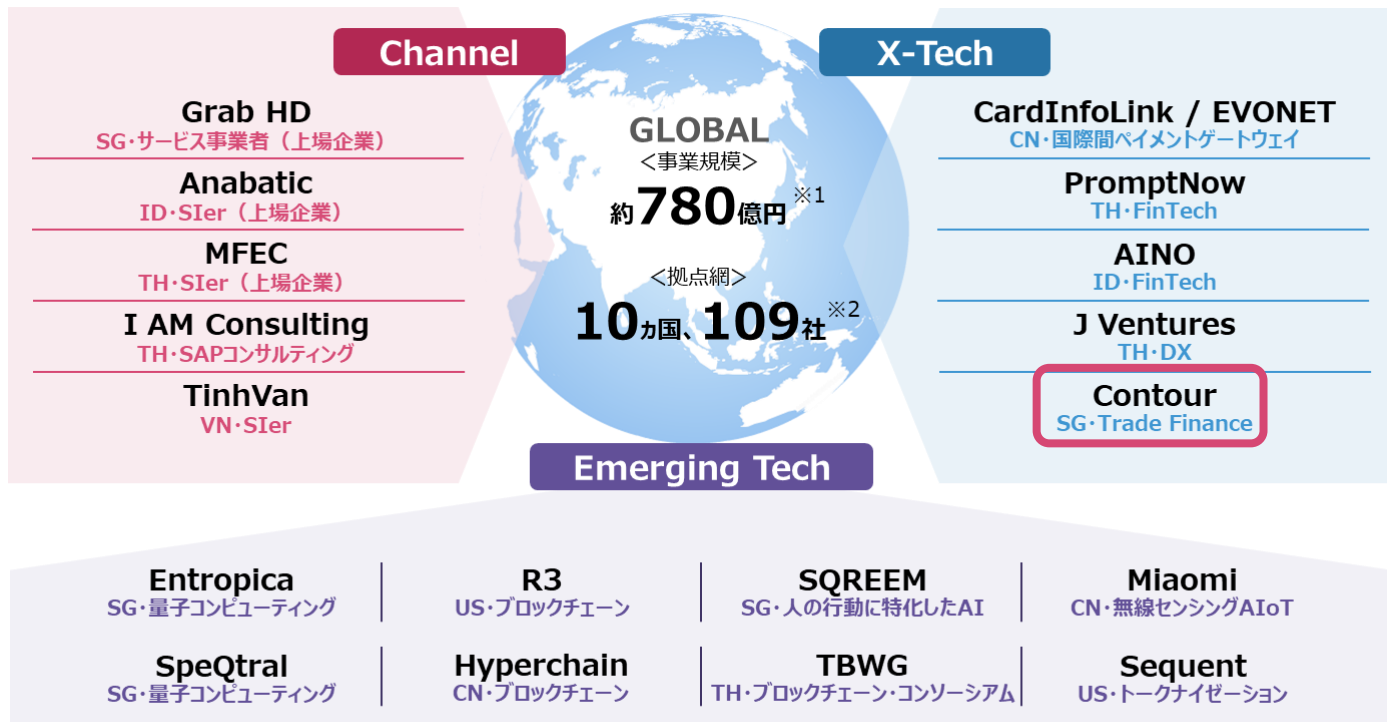
金融分野：36.0% 産業分野：54.5%
公共分野：6.6% その他：2.9%

TISインテックグループの海外事業戦略

貴社限り



ASEANトップクラスのIT企業連合体を目指し、パートナーシップの拡充を推進。



※1子会社+持分法適用会社 売上高合計・2021年12月期実績を期末レートで換算

※2 2022年7月1日時点

2. TISとR3の関係／TISのブロックチェーンビジネスへの取組

2018年5月 米国R3社と資本・業務提携



【資本・業務提携の背景】

- ブロックチェーンは、「AI」「IoT」と並んで、DX分野で期待される有望技術
- 将来的に従来型の中央管理型ビジネス ⇒ 分散型ビジネスに転換される可能性
- エンタープライズ向けブロックチェーンのプラットフォーム「Corda」を開発



Cordaも含めたエンタープライズ領域でのブロックチェーン活用を積極推進

ブロックチェーン
ビジネス推進

2018 Jun

ブロックチェーン
推進室設立

ブロックチェーンビジネス
の推進/技術者育成

「SBI R3 Japan」と連携しながらCordaを活用した案件に関与

2020 Feb



給付金自動請求
PoCをご支援

2021 Jul



船舶向け燃料受
発注一元管理
「BunkerNote」
構築支援

2022 Oct

AsahiKASEI

偽造防止デジタル
プラットフォーム
「Akliteia®」
構築支援

ブロックチェーンを活用したPoCやシステム受託/自社サービス開発を推進

ブロックチェーン
関連企業出資

2018 May



資本・業務提携

「Corda」を活用したエンタープライズサービスをリサーチ

2021 Dec



ブロックチェーンを活用して社会課題を解消する企業と資本・業務提携

2020 Dec



2021 Jun



2021 Nov



2018

2019

2020

2021

2022

c·rda

プライバシー



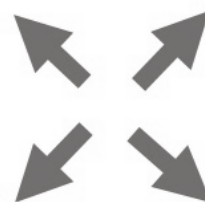
取引を全ノードで共有せず、
必要なノード間でのみ共有

インター オペラビリティ



複数システム間をシームレス
につなげることが可能

スケーラビリティ



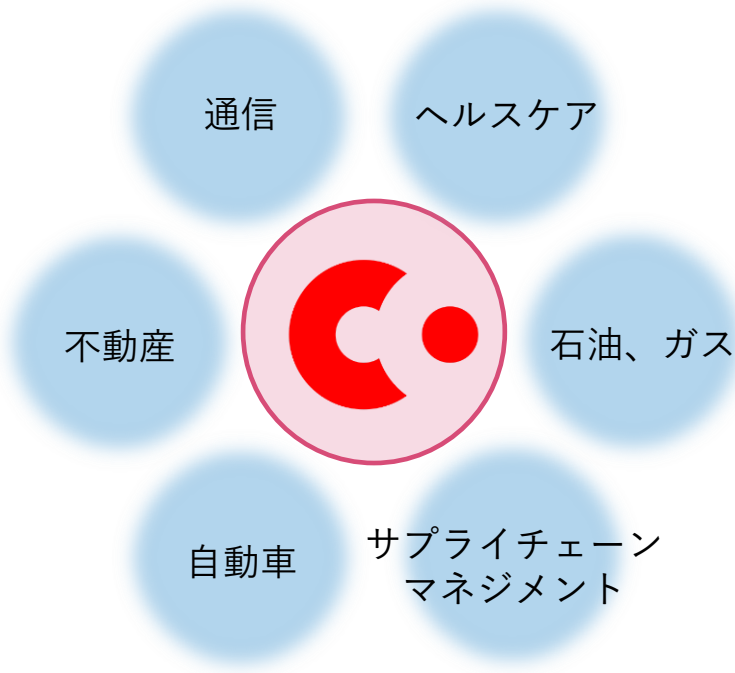
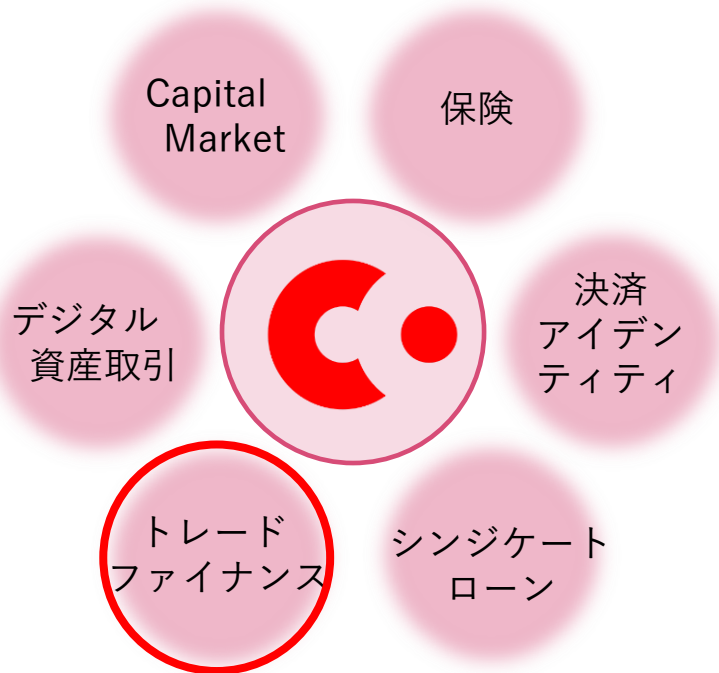
トランザクションの並列処理
が可能で高い処理速度を実現

特に企業間取引においては、当事者間のみでデータを共有したいという要望が強く、
当事者以外には取引自体の存在も伝えない **Cordaのプライバシーコントロール**は最大の特徴

業務の現場で発生している課題を解決するためのプラットフォームとして開発された Cordaのプライバシーコントロールを活かして金融・非金融のビジネス全般で活用が可能

金融

非金融



CONTOUR



TIS、ブロックチェーン技術を用いたTrade Financeプラットフォームを提供するシンガポールのContour Pte. Ltd.と資本・業務提携



【プレス概要】

- Contourの国内インテグレーションパートナー(日本初)に認定
- Contourのサービスやマーケットの拡充を支援
- 銀行や企業でのContourプラットフォームの導入支援やコンサルティングの実現
- プラットフォームの導入支援をサービスとして日本展開していくことも検討

3. 貿易信用状取引のDXプラットフォーム(Contour)のご紹介

Contourとは？

貴社限り



The Trusted Network for Global Trade

Join the digital transformation in trade finance

CONTOUR

- R3傘下でプロジェクトスタート。2019年にシンガポールで会社設立。2020年10月サービス開始
- **Letter of Credit (L/C)の作成・検証・共有をブロックチェーン(R3 Corda)でプラットフォーム化**
- 銀行からの期待も大きく、SMBC様を始め多くの銀行も出資

★革新的なソリューションとして、各種アワードを受賞★



GTR Awards 2022
Best Fintech in Trade



GTR Awards 2021
Leader in Trade for Digitalisation



Global Banking & Finance Review
Best New Trade Finance Technology
Solution Provider Asia & Singapore
2021



TMI Awards 2021
Best Trade Finance Solution

Contourのネットワーク (2022年7月時点)

貴社限り

17の銀行、世界50カ国以上で利用可能



信用状(L/C : Letter of Credit)とは

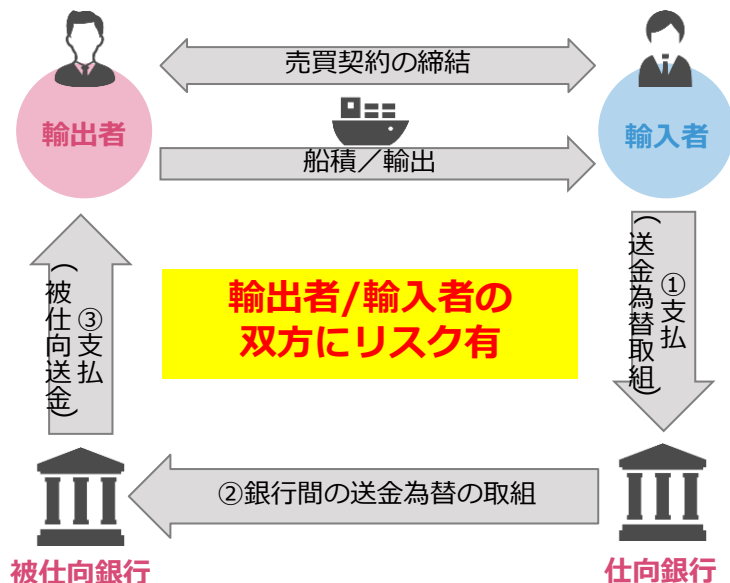
貴社限り

信用状条件に基づく取引であることを銀行が保証し、銀行が輸入者に代わり輸出者への代金支払を保証

L/Cなし取引（オープンアカウント取引）

後払い：代金が支払われない/代金回収に時間がかかる

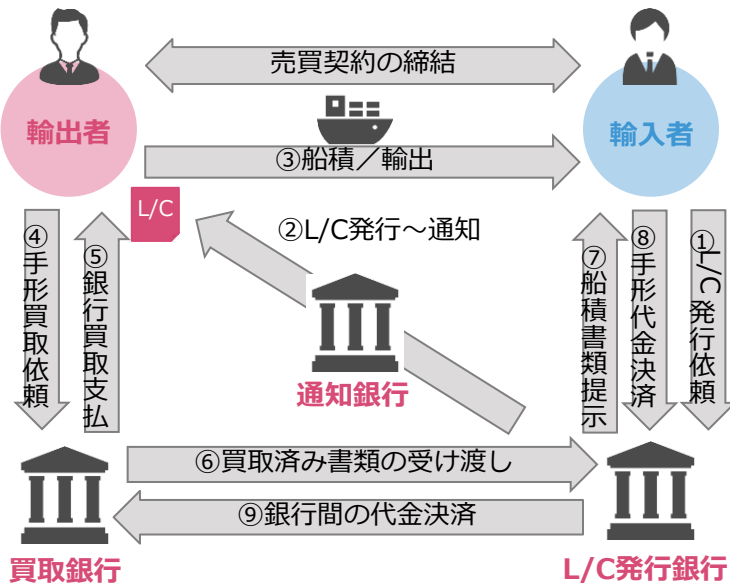
前払い：取決め通りに商品が届かない



L/Cあり取引（ドキュメンタリー取引）

輸出者：手形の買取完了後に代金支払。回収早期化

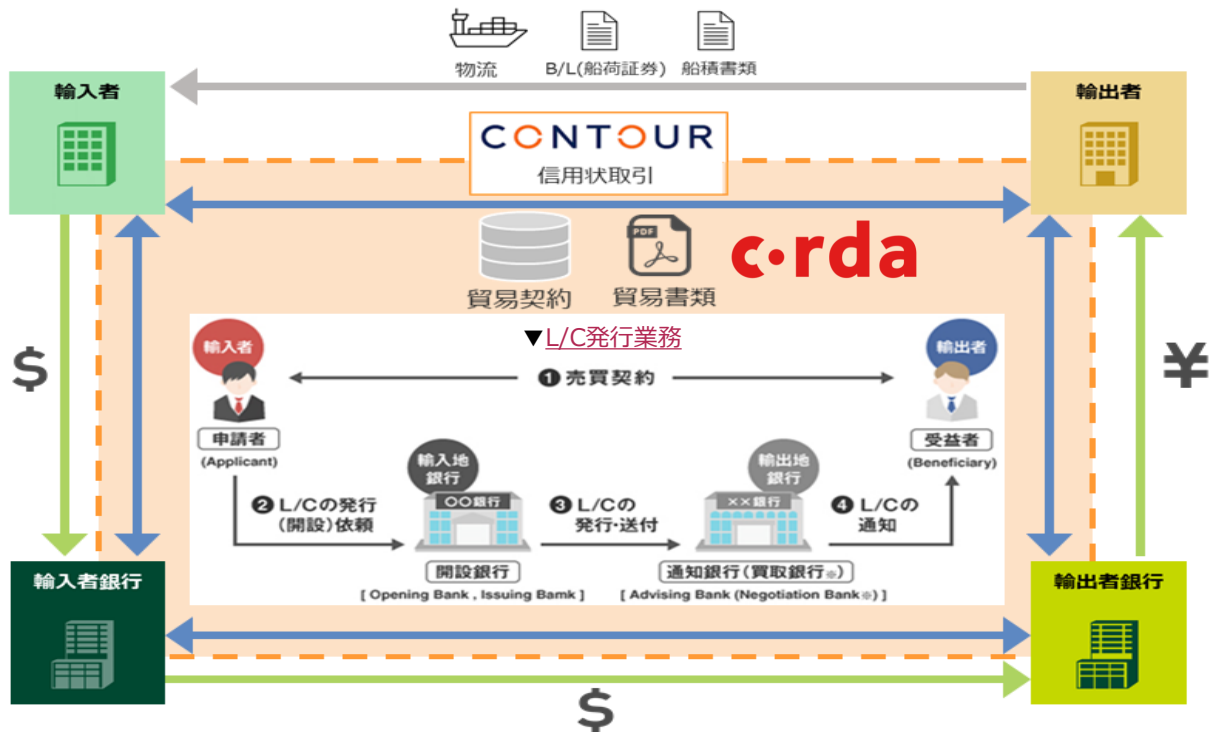
輸入者：商品受取後に代金支払が可能

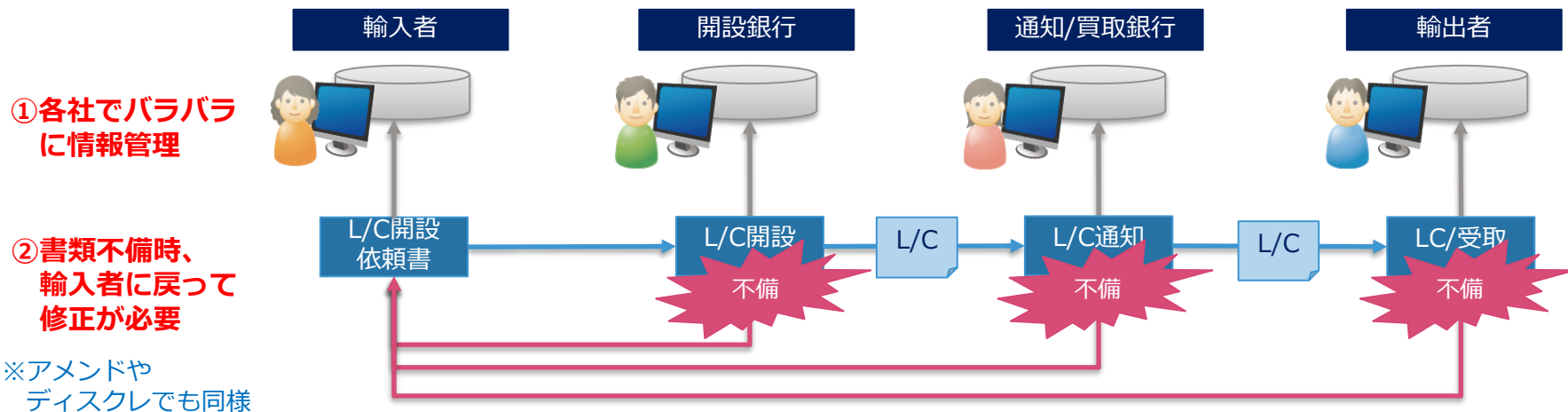


Contourとは（サービスイメージ）

貴社限り

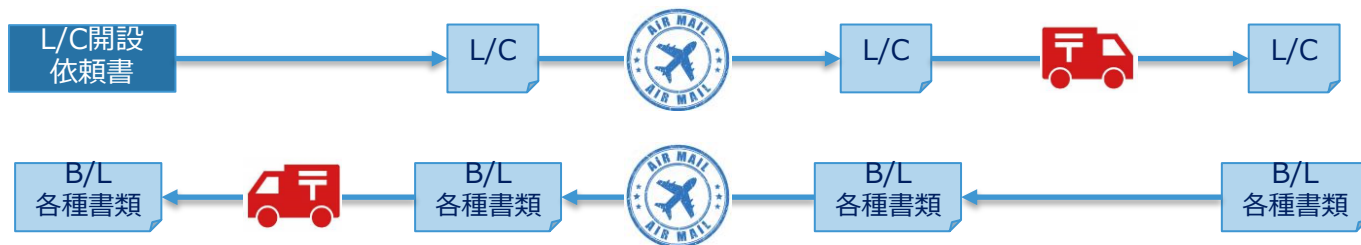
Cordaを活用して、4者間(輸出入企業、開設/通知銀行)でのL/C依頼～発行～通知～接受のプロセスをスマートコントラクト化

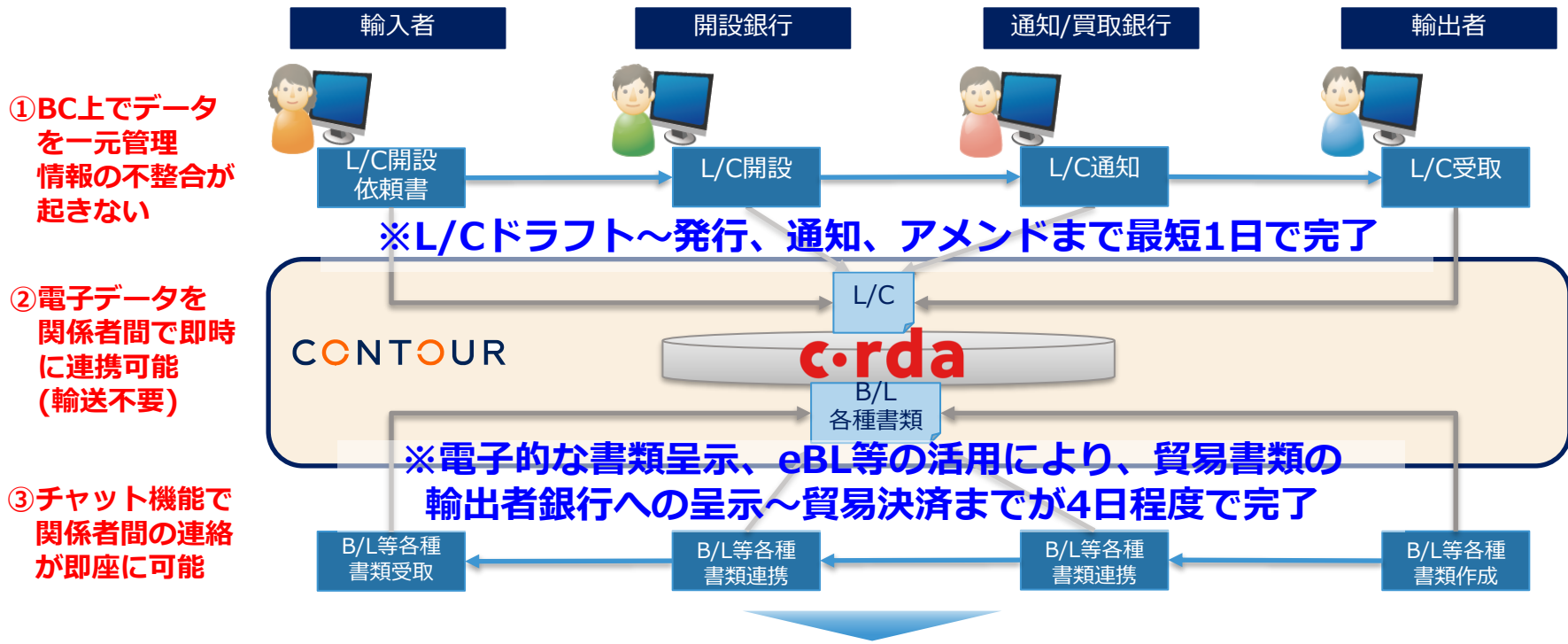




③書類の輸送時間がかかる。

※荷物の方が先に届く場合も…





従来のL/C取引と比較して、貿易取引全体(契約締結～貿易決済完了)で、16日～20日の期間短縮(※)を実現。 = 各種コスト削減、早期の現金化/後続ビジネスへの早期着手が可能

貿易業務の様な「複数の企業間で一連のプロセスがある取引」は、ブロックチェーンとの親和性が高いと言われているが、

◆ブロックチェーン技術との親和性

- グローバルの貿易ビジネスにおいては中央集権的な管理は困難で**分散管理**が最適
- 輸出入業社、銀行以外にも運送会社、保険会社、税関など**多くの参加者間でL/C情報をトレースして共有・管理可能**

◆Cordaとの親和性

- **必要なノード間のみ情報共有可能**で、ビジネスプライバシーを担保
- 独自のメッセージングプロトコルにより**P2Pでのやりとりが可能**
- 多くの金融機関がR3に参画しており、**銀行や規制当局からの受け入れが非常に容易**
(他のサービスは、銀行からの承認に36ヶ月かかるが、Contourは20ヶ月以内に17の銀行が参加)

4. Contourの国内導入に向けたTISのアプローチ

Contourは貴社の貿易業務を効率化する1つの手段であるが、導入に際して以下の障壁もある。

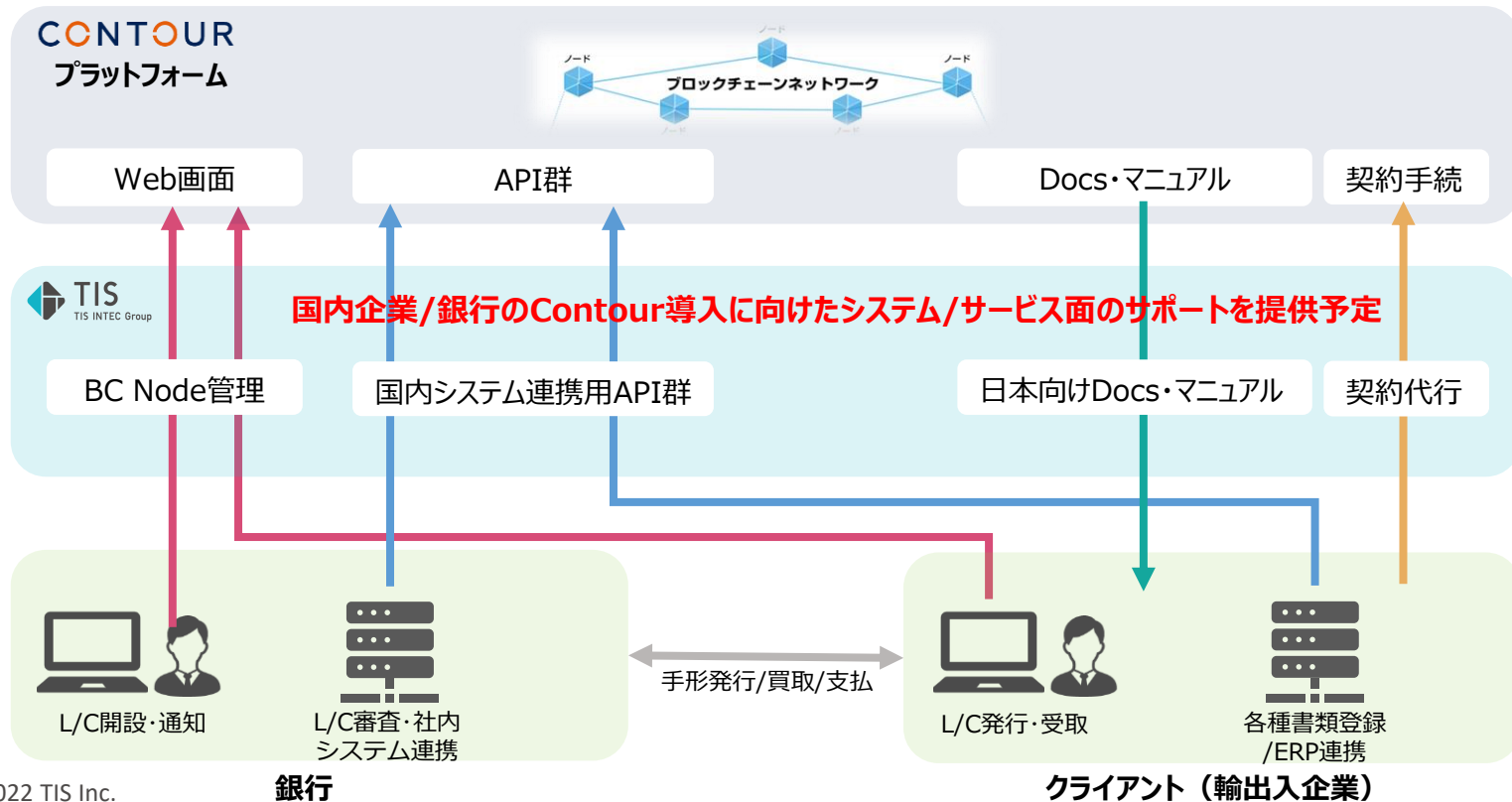
- **言語の壁** : 導入や接続、契約の調整を英語でするのは負担
- **スタートアップ** : Contourの信頼性／将来性、サポートに対する不安
- **機能追加対応** : 機能追加の都度、自社システムの対応は負担
- **日本の商慣習** : 海外企業であり日本の商慣習に対応できるか不安
- **導入効果** : 最大効果を得るには業務への組込／システム連携が必要

日本のSIerによる保証とBPRを含むシステムインテグレーションのサポートが必要

TISのインテグレーションパートナーとしての役割

貴社限り

TISはContourのインテグレーションパートナーとして、APIを利用して銀行システムや企業のERPシステム(貿易プラットフォーム)との連携や各種サポートサービスを提供し、日本国内の貿易業務のDX加速に寄与していく。

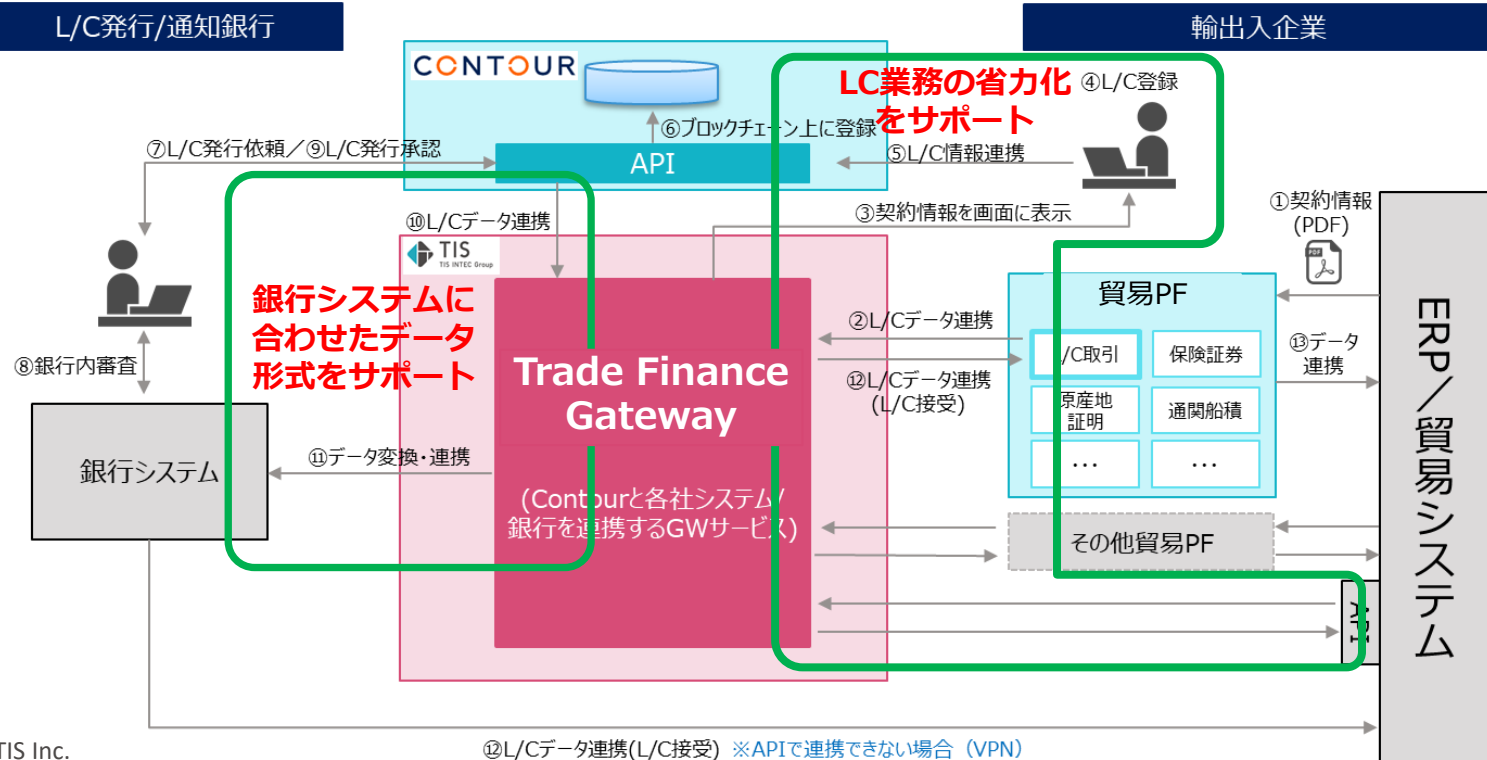


TISサービスのイメージ(全体像)

貴社限り

現在検討中

輸出入企業（貿易PF）／銀行／Contour間のデータ変換・連携等の機能を
Gateway（Trade Finance Gateway）によりシームレスに提供し、L/C業務の負荷軽減を実現



現在検討中

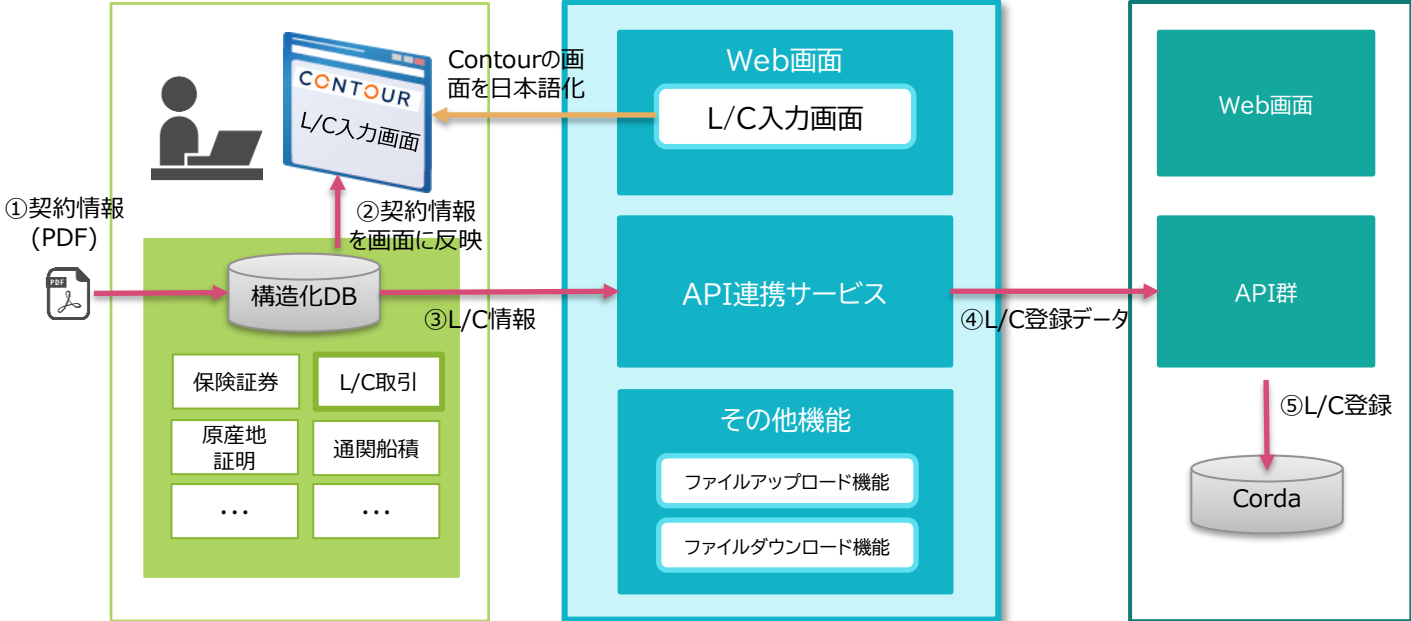
貿易プラットフォーム/パッケージソフトからContourへの自動連携を可能にし、各社のデータをシームレスに反映し、APIで連携してContourへのL/C登録を実現

輸入企業

貿易プラットフォーム
/貿易パッケージソフト

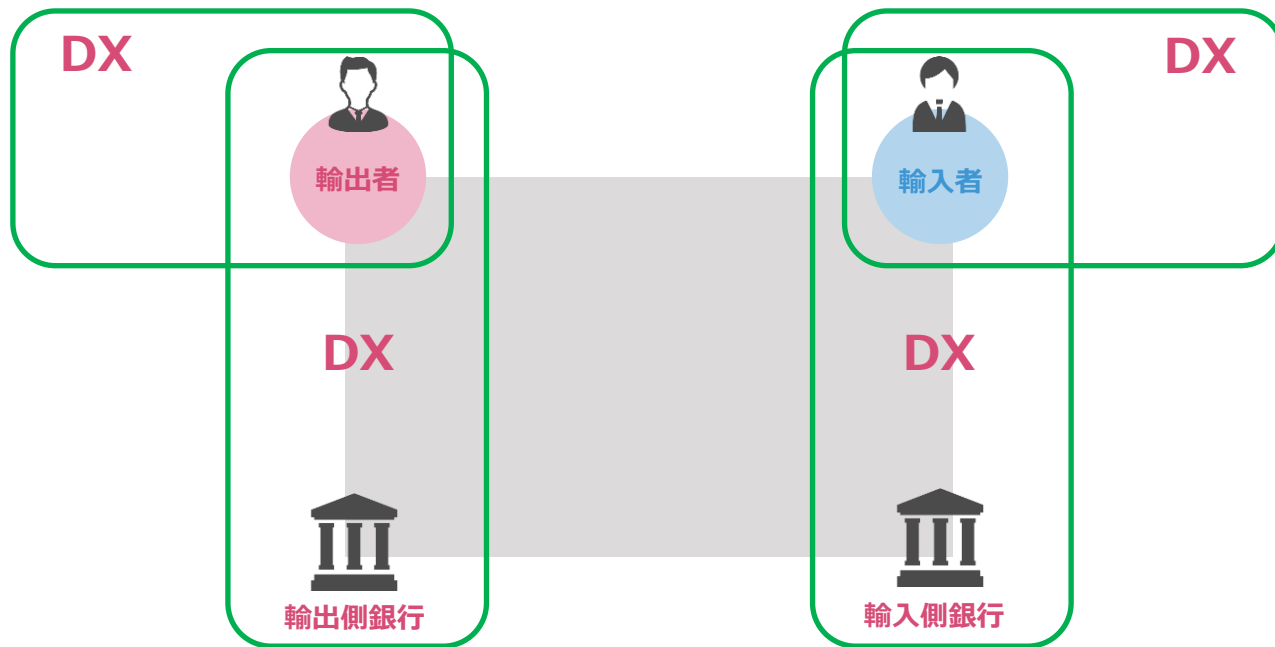
CONTOUR

ERP / 貿易システム



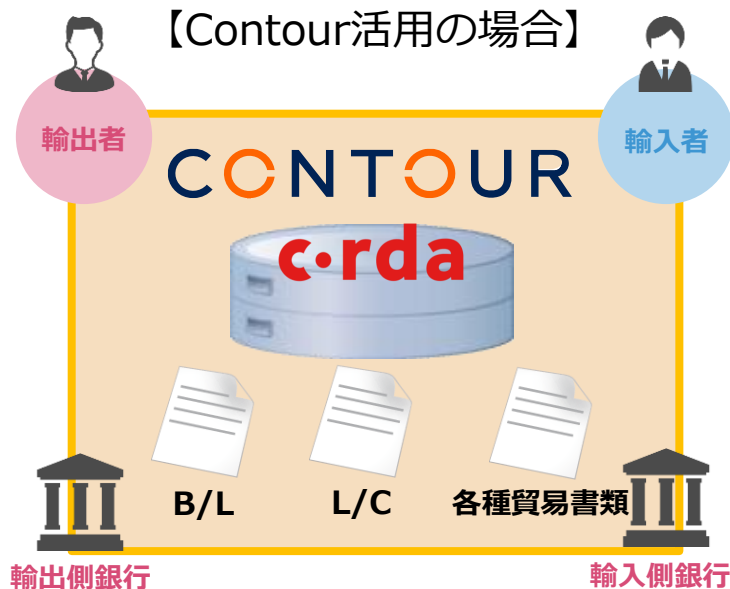
5. 最後に

【これまでの貿易DXの取組】



- ・グローバル規模で既存の貿易プロセスを変える様な動きは少ない。
- ・実現スピードは速く効果を得やすいが、得られる効果が限定的になる。

4者間でContourを導入してデータ共有するモデルは、SWIFTベースのL/Cのプロセスをデジタルイゼーションし、貿易関係者全体でのDX効果を創出する。



将来全ての貿易書類がデジタル化された際に、情報管理の器になりうる可能性を秘めている。

TISはテクノロジーを熟知し、サービスを深く理解し、お客様の立場に立って最適なインテグレーションをご提供して、お客様のDXに貢献してまいります。

CONTOUR
c.rda

 TIS
TIS INTEC Group

お客様

ご清聴ありがとうございました

ITで、社会の願い叶えよう。



<本資料に関するお問い合わせ >

TIS株式会社

金融事業本部 金融戦略事業企画部

内田 謙一 (Kenichi Uchida)

〒135-0061 東京都江東区豊洲2-2-1 豊洲ベイサイドクロスタワー

TEL : 070-2197-8780 E-Mail : uchida.kenichi@tis.co.jp

<本資料の取り扱いに関して>

本資料は、著作権法及び不正競争防止法上の保護を受けております。資料の一部あるいは全部について、TIS株式会社から許諾を得ずに、複写、複製、転記、転載、改変、ノウハウの使用、営業秘密の開示等を行うことは禁じられております。本文記載の社名・製品名・ロゴは各社の商標または登録商標です。